

天理市埋蔵文化財センターだより  
Vol. 5

特集 『発掘の現場から  
—地下に眠る天理の昔々—』

天理市教育委員会

天理市教育委員会

◎冬の文化財展

平成18年度発掘調査速報展  
2007年12月11日(火)  
～23日(日)

※月曜日は休館日  
天理市文化センター  
1階展示ホールにて

天理市教育委員会

天理市教育委員会 文化財課

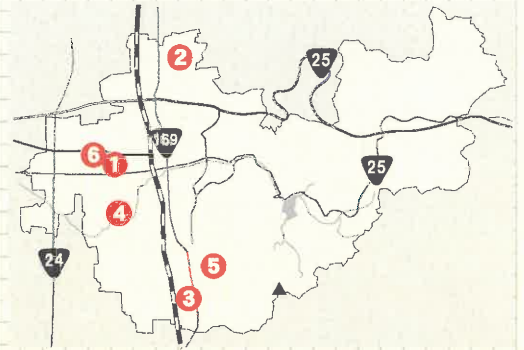
# 発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-

## 平成18年度発掘調査速報展

期間 平成19年12月11日(火)～23日(日)  
会場 天理市文化センター1階展示ホール

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回の「センターだより」紙面では、平成18年度におこなった8件の発掘調査の成果をご紹介します。発掘調査速報展示とあわせてご覧ください。

- ① 平等坊・岩室遺跡      ② 願興寺跡      ③ 柳本藩邸遺跡
- ④ 合場遺跡      ⑤ 成願寺遺跡・ホックリ塚古墳
- ⑥ 平等坊・岩室北遺跡



### 平等坊・岩室遺跡

#### 第28次 第29次 第30次

びょうどうぼう・いわむろいせき

#### 【第28次調査】

遺跡の北辺にあたる部分を発掘しました。調査区南側で見つかった川は、護岸工事など人が手を加えながら、弥生時代中期から平安時代まで流れ続けていたことが分かりました。

また、この調査では集落の北側に環濠がめぐっていること、濠の外側に墓（方形周溝墓）があることも明らかになりました。集落北部の様相を知る貴重な手がかりです。



方形周溝墓から出土した弥生時代中期の土器

#### 【第29次調査】

遺跡の中心に近い弥生環濠集落居住域を発掘しました。

調査では、最初にムラが形成された弥生時代前期前半頃の溝やムラをとりまく自然環境の変化を示す川跡がたくさん見つかり、こうした状況から、集落内でも住みやすく生活に適した微高地と住みにくそうな川べりの低地などにわかれていたようです。また、このようなムラの景観は古墳時代初め頃まで続くことも明らかとなりました。

この調査では、通常は前期古墳の副葬品となる腕輪形石製品（鋏形石）が土坑に納められて出土しました。鋏形石は先端が意図的に切り取られており、近接する同時期遺構の在り方から川べりで何らかのお祭りをした後に穴に埋められたものと考えられます。

これまでの平等坊・岩室遺跡の調査では、集落北東の高台にこのムラの首長の住まいと考えられる方形の区画が見つかっており、鋏形石はその主との関係が濃厚な遺物と言えます。集落での出土は全国的に見ても初めての発見であり、とても貴重な資料となるものです。



鋏形石の出土状況



土坑に埋納された鋏形石

#### 【第30次調査】

これまで調査がされていない遺跡の南東端の部分を発掘しました。その結果、弥生時代中期末から後期前葉にかけての溝や穴と、弥生時代前期後半の水田状の遺構が見つかりました。県内で弥生前期の水田は非常に珍しく、今後より広い範囲を発掘して確かめる必要があります。また、弥生時代中期末の鉄の斧も見つかっており、これも珍しいものです。



弥生時代前期の水田？

#### 期間【第28次調査】

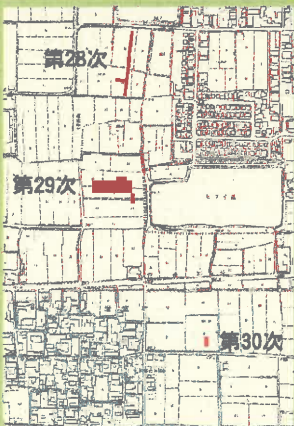
平成18年5月15日～  
平成18年7月15日

#### 【第29次調査】

平成18年10月10日～  
平成19年2月11日

#### 【第30次調査】

平成19年2月19日～  
平成19年3月19日



## 願興寺跡

がんこうじあと

2



期間 平成18年7月31日～  
平成18年8月14日



掘立柱建物

和爾町でライスセンターの建設に伴って、願興寺というお寺の跡を発掘しました。和爾町は古代豪族ワニ氏で有名な歴史の古い土地ですが、奈良時代にも立派なお寺があったことがわかっています。

今回の発掘調査ではお寺の建物の一つと思われる掘立柱建物の跡が見つかり、その隣には建物と同じ方向を向いた溝が走っていました。これらの建物の柱の跡や溝の中から、奈良時代に使われていた須恵器・土師器などの土器や瓦、移動式のカマドなどが出土しました。

## 柳本藩邸遺跡 第11次

やなぎもとほんていせい

3



期間 平成18年8月7日～  
平成18年8月24日

江戸時代柳本藩の邸宅である柳本藩邸遺跡の北東部で初めて発掘調査をおこないました。調査では江戸時代後半頃の石垣が見つかりました。石垣の前の溝には、日常生活で使われた各種の陶磁器の破片や屋根瓦の破片が捨てられていました。



石垣出土状況



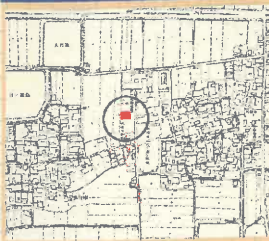
出土した燈明皿

出土した青銅製の燈明皿は江戸時代後半頃のもので、法隆寺に伝わっている宝物の中にこれとよく似た形状のものがああります。上街道沿いに展開した近世柳本の暮らしを今に伝える資料です。

## 合場遺跡 第6次

あいばいせき

4



期間 平成18年10月30日～  
平成18年12月15日

井戸堂小学校の拡張に伴って、合場遺跡の東端ぎりぎりの部分を発掘しました。鎌倉時代ごろの田んぼと井戸の跡が見つかったほか、古墳時代から平安時代にかけての川の跡が見つかりました。地理的な位置関係からみて、古代の布留川の一部を見つけたものと思われる。



中世井戸発見！

今でも奈良盆地内の川は東西南北の方位にあわせて流れているものが多いですが、これは鎌倉時代ごろに大規模な区画整理があって、それにあわせて川も付け替えたためと考えられています。合場遺跡の調査では、その一端を垣間見ることが出来ました。

## 成願寺遺跡 ホックリ塚古墳

じょうがんじせい  
ほっくりづかこふん

5



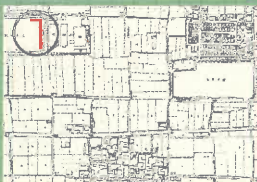
期間 平成18年6月12日～  
平成18年7月18日

市道建設に伴って、萱生町のホックリ塚古墳のすぐ横を発掘しました。古墳にかかわる遺構は見つかりませんでした。古墳が出来る前に住んでいた人たちが使った土器が見つかりました。その中には弥生時代中期後半ごろのものも含まれており、萱生町周辺にそのころから人が住み始めたことがわかりました。

## 平等坊・岩室北 遺跡

びょうどうぼういわむろきた  
いせき

6



期間 平成18年11月22日～  
平成18年12月26日

荒蒔東池の改修工事に伴う発掘調査です。遺構は見つかりませんでした。古い時期の川がありました。東隣の平等坊・岩室遺跡でこれまで確認されている川の下流部分にあたると思われます。



調査風景

## 出土品紹介

# 板状鉄斧

ばんじょうてっぴ

2ページでご紹介した平等坊・岩室遺跡第30次調査で、弥生時代中期末（約2000年前）のものと思われる板状の鉄斧が1つ見つかりました。県内で見つかった鉄製品としては最も古いものです。大きさは長さ15cm・幅5.7cm・厚さ1.5cm・重さ358.5gと立派なもので、樹木の伐採に使われたと考えられます。こうした大きな鉄斧は、全国的にも地域の拠点となる大きなムラや、主要な交通路を見下ろす山の上に作られたムラなどでしか見つからないもので、平等坊・岩室遺跡が当時の近畿地方の中でも重要なムラの一つだったことを示す発見といえます。



■平等坊・岩室遺跡第30次  
板状鉄斧

## 出動！ 発掘現場レポート！！

平成19年度上半期の調査

平成19年度上半期には2件の発掘調査をおこないました。その成果をいち早くお知らせいたします。

### ■前栽遺跡第6次

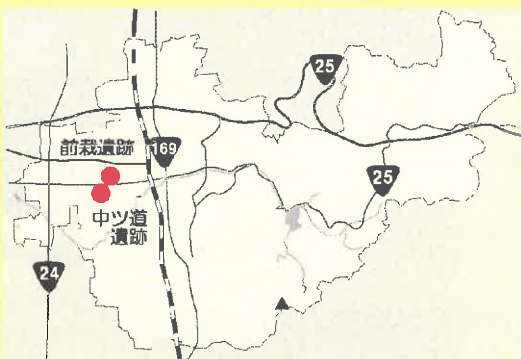
富堂町内で計画された共同住宅建設に伴い、前栽遺跡の南半部で初めての発掘調査をおこないました。弥生時代中期末～後期前半の溝から土器が出土しました。

前栽遺跡は平等坊・岩室遺跡の東隣に位置しますが、弥生集落が前栽遺跡の南半部にも広がる可能性が見えてきました。

### ■中ツ道遺跡

宅地開発に伴い、前栽町地内で埋没古墳の痕跡を見つけるための調査をおこないました。その結果、北西～南東方向の溝を一本見つけましたが、遺物が出土しなかったため、古墳に伴うものかどうかはわかりませんでした。

平成19年度の調査成果は  
来年冬の文化財展で  
展示するよ！



■平成19年度上半期の調査遺跡



■前栽遺跡第6次  
調査風景

発行◆天理市教育委員会 文化財課  
天理市埋蔵文化財センター  
〒632-0017 奈良県天理市田部町320  
Tel・Fax 0743-65-5720  
印刷◆東洋印刷(株) 天理市兵庫町104-4

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.6は、来年夏の発行予定です。  
お楽しみに！！